

収録・解説 酒井董美

語り手 福島寿子さん  
(大正10年生まれ)  
平成8年3月16日収録

さあ、本当の殿さまの行列が通って行きます。狸はすっかり感心してしまつて。

あらすじ

とんと昔があったけな。狐と狸がおりました。

狐と狸が「だまし比べをしよう」ということになり、それで、「いついつ、お殿さまが通られるから」っていついふ、それは狐の方が言い出したよつで。で、狐はその日を知つてて言い出したと思つんですけど。

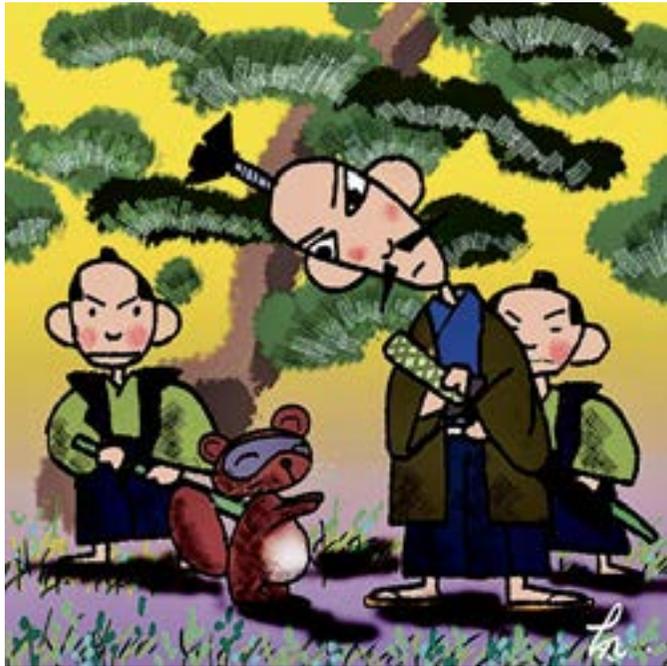
当日になりました。

さあ、狸は「狐は上手に化けたかなあ」と気になるし、見に行つたわけなんですよねえ。約束もありますし。

## 狸と狐の化かし合い

(米子市大篠津町)

## 米子では藤内狐の伝説分布



イラスト・福本隆男

解説

「ほんのやあななあ。ほんのやあななあ」って、喜んで見てたそうですけど、お殿さまの目にふれて、「無礼者が」ということで、手打ちにされたつていつ話。

昔こぼり山の芋。

「あらすじ」として紹介されたけれど、正確にいえば、これはご本人の語りをほぼそのまま文字化したものである。それというのも、この話の全体が短く、紙面にくちどりがあり、そのまま出しておいたという次第である。

さて、この話は関敬吾博士の『日本昔話大成』俗篇の資料を収集するたよると、本格昔話の「人め、市内の公民館あたりと狐」の中にある「狐の化け比べ」に分類され、次のように紹介されている。そして回っていた折、聞かせていただいた話の一つ

1 (a) 狐が狸に芝居をして見せる。(b) 狸が和尚に化けて案内し、法事のごちそうを狐に食わせる。(c) 狐が地藏に化けて弁当を供えさせて食う。

2 (a) 大行列、(b) 嫁入り行列、(c) 侍狐が化けたのかと思つて、からかって殺される。

ところで、米子市では藤内狐についての伝説がいろいろと分布しており、中にはこの話も昔話ではなく、戸上山の藤内狐と狸の話として伝説化されているものもあり、おもしろい。

福島さんからうかがつ

(元鳥取短期大学教授)  
(水曜日に掲載)